

■ 亀田ファミリークリニック館山 (KFCT)

院長 岡田 唯男

1. 2018 年度の目標と方針

(1) 財務の視点：

- ・ 地域包括診療料 2 から 1 の算定を目指す

外来から在宅のスムーズな移行を目標に、月 1 例以上、外来からの在宅導入を目標にする。

(2) 顧客の視点：

- ・ 病院でも家族を診る、地域を診る、QI プロジェクト

病棟ベースのプログラムとの連携を強化することで、病院でも家族、地域を診られる環境を整備。

QI 活動を開始する。

(3) 内部プロセス：

- ・ 勤務時間調査を行い、長時間労働の拾い上げと対策を練る。

(4) 学習と成長の視点：

- ・ 出張申請が出された勉強会、研究会などを、定数把握する。

文責：吉澤 瑛子

2. 2017 年度評価（総括）

（準備中）

年間活動

2017 年 6 月 館山トライアスロン大会 救護班

2017 年 7 月 北条海岸 ビーチクリーン活動に参加

2017 年 7 月 納涼祭。他職種でよりよい職場環境へのディスカッション

2017 年 8 月 8 日 館山湾花火大会協賛

2017 年 10 月 秋の作品展

2018 年 1 月 第 38 回館山若潮マラソン大会駐車場貸与、救護班

文責：吉澤 瑛子

3. 診療実績

(1) 外来

- ・ 年間外来受診者数 68,542 名(月平均 5,712 名)うち初診患者数 4.7%(KFCT 新来率=ID 作成 0.5%)

- ・ 地域包括診療料算定 538 件/年

- ・ 乳児健診 233 件/年、妊婦健診 延べ 76 件/年、ニコチン依存管理料 145 件/年、外来栄養指導 57 件/年

- ・ 主な検査：血液検査 6,564 件/年、心電図検査 589 件/年、単純 X 線検査 1,828 件/年、超音波検査 680 件/年

① 紹介

- ・ 他院からの当院への紹介 年間 188 件（うち鉄蕉会内部 94 件）

- ・ 当院から他院への紹介 年間 1,444 件 紹介率 2.1%。約 97.9%は当院で完結している。

② 予防接種

- ・別項参照

③ 患者様の声

- ・患者さまの声（2017.4～2018.3）計 10 件（診療：満足 1 件、要望 1 件、不満足・苦情 1 件 接遇：苦情 1 件 設備：要望 2 件 その他：要望 3 件、苦情 1 件）

・2017 年度患者満足度調査結果

	事務職員 の言葉遣い や態度	待合室 へのご案内	看護職員 の言葉遣い や態度	医師の 言葉遣い や態度	医師の 知識や 技術	医師の 説明の わかり やすさ	待ち 時間 の長 さ	待ち時 間への 対応	受診 しやす さ	総合 満足 度
全 体	4.57	4.48	4.53	4.84	4.66	4.71	3.83	4.08	4.49	4.57

④ 2017 年度の主な活動

- ・地域包括診療料

地域包括診療料とは高血圧症や糖尿病など複数の慢性疾患をもつ患者に対し、かかりつけ機能をもつ主治医が継続的に診療を行う場合に、月単位の定額報酬として請求できる制度である。当院では 2014 年の新設以来一部患者で算定していたが、2017 年度から積極的に取り組み、年間延べ 538 名（前年度比 6.4 倍）の増加となった。

- ・その他外来プロジェクト

当院では定期的に多職種と連携して、外来患者に対してより良いケアを提案するためにリマインドや啓蒙するためのプロジェクトを行っている。2017 年度は前年度から引き続き、地域住民の健康診断受診率増加のために館山市及び南房総市個別健診・検査結果連絡票（通称みなし健診）の受け入れを行い、前年度よりも増加した。また、当院受診者やその付き添いの家族に対して、子宮頸癌スクリーニングの啓蒙活動を行った。

文責:上松 東宏

(2) リハビリテーション科領域

当院では子どもから高齢者までの診療を担うため、リハビリテーション（以下リハ）診療の内容も多岐にわたる。脳血管、運動器疾患のみならず、近年は発達障害に対する支援を求められる。このため、知識のアップデートや他職種連携を図るべく、3 つの勉強会/カンファレンスを定期開催している。

① 思春期勉強会：

毎月第 2 火曜日の朝、小学校～高校（主に思春期）の児童に関する様々な課題（不登校、自傷行為、発達障害、性教育 etc）を扱う勉強会を行っている。事例相談、レクチャー、情報共有など様々な形式で行っている。テーマは、6 月（思春期の子供や家族を支援する地域資源）、7 月（情報共有）、8 月（父子家庭のケア）、9 月（主訴と診断、転帰が異なった例）、10 月（思春期の睡眠、LD 学会報告）、11 月（コモンセンスペアレンティング）、12 月（学級崩壊を経験した子供のケア）、1 月（不登校の子どもが転居する場合の対応）、2 月（南房総市教育相談センターについて）、3 月（不登校の小学生）で行った。地域の学校の養護教諭、スクールカウ

ンセラ、教育委員会職員、セラピスト(OT/ST)、家庭医など平均 10 名前後が参加している。

② 小児リハカンファ :

毎月第 4 火曜日の夕方、幼児～小学校の児童に関する様々な課題(主に発達障害)を扱う勉強会を行っている。亀田総合病院小児科の専門医を囲む形で、事例相談が多いが、レクチャー形式の時もある。保健師、養護教諭、保育士、セラピスト(OT/ST)、家庭医など地域の療育に関わる職種が様々に集い、平均 20-30 名が参加している。2018 年度はさらに臨床心理士も交えて議論を交わして行く予定である。

③ リハビリ勉強会 :

毎月第 3 火曜日の昼休みにリハ部門のセラピストと医局で合同の勉強会を行っている。テーマは、当院で行われているリハの実働状況や、当院のセラピストが行った海外支援の報告、インソールについてなど多岐に渡っており、両部署で交互に担当して行った。

文責：相田 万実子

(3) スポーツ医学科領域

平成 28 年 6 月より診療体制が変わり、本院からスポーツ医学科部長の大内医師が月 1 回の半日外来を担当し、家庭医外来からの紹介もしくは継続フォローの患者のみの対応となった。家庭医外来からの新規の紹介は月 2-3 名程度であり年間 20 名、のべ受診者数は年間 31 名だった(休診が 3 回)。内訳は肩、膝、腰の疾患が多く、若年スポーツ選手も含まれていた。

文責：年森 慎一

(4) 産婦人科領域

2006 年の開院以来、家庭医および家庭医を目指す後期研修医による妊婦ケアを亀田総合病院産婦人科のサポートのもと実践している。2017 年度(当院受診が 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)に妊娠反応陽性で受診した患者は 19 名であり当院で 2 回以上継続して妊婦健診を行った患者は 17 名だった。また妊婦健診の時間に婦人科の診察も行っており、当院に定期通院している患者さんの様々な相談に乗っている。2016 年度より当院の研修修了し家庭医療専門医・産婦人科専門医の水谷佳敬先生の指導が開始となった。2018 年 1 月より、スタッフの勤務の都合で妊婦健診は火木土の週 3 回から、火木の週 2 回となった。産後ファミリー外来では、産後 2 週間、1 ヶ月で、新生児と褥婦の診察をしている。家庭医が関わることで、母子同時の受診が可能であり、家族メンバー全員の想いを聞いたり、小児科、婦人科以外の領域の相談に応じたりすることもできている。2013 年度から館山市、南房総市、鋸南町、鴨川市の子宮頸癌の施設検診を受託する指定医療機関となっている。2017 年度は 9-10 月に子宮頸がん検診を推奨するチラシを配布し、前年度より 11 名多い、計 227 例(館山市 124 例、南房総市 83 例、鋸南町 19 例、鴨川市 1 例)の検診を施行した。

文責：岡田 悠

(5) 予防接種

・ワクチン接種数：年間総本数 8552 本(月平均 713 本)

・主な内訳(公費/自費ともに含む)：

インフルエンザワクチン 3856 本、成人肺炎球菌ワクチン 255 本、ヒブワクチン 532 本、小児肺炎

球菌ワクチン 572 本、 BCG ワクチン 145 本、 MR（麻疹風疹）ワクチン 262 本、 日本脳炎 880 本、 二種混合 (DT) ワクチン 122 本、 水痘ワクチン 309 本、 ムンプスワクチン 254 本、 ロタウイルスワクチン（ロタリックス®） 192 本、 A 型肝炎ワクチン 4 本、 B 型肝炎ワクチン 539 本、 ヒトパピローマウイルスワクチン 0 本など。接種本数のうち、インフルエンザワクチンが約 45%を占めた。

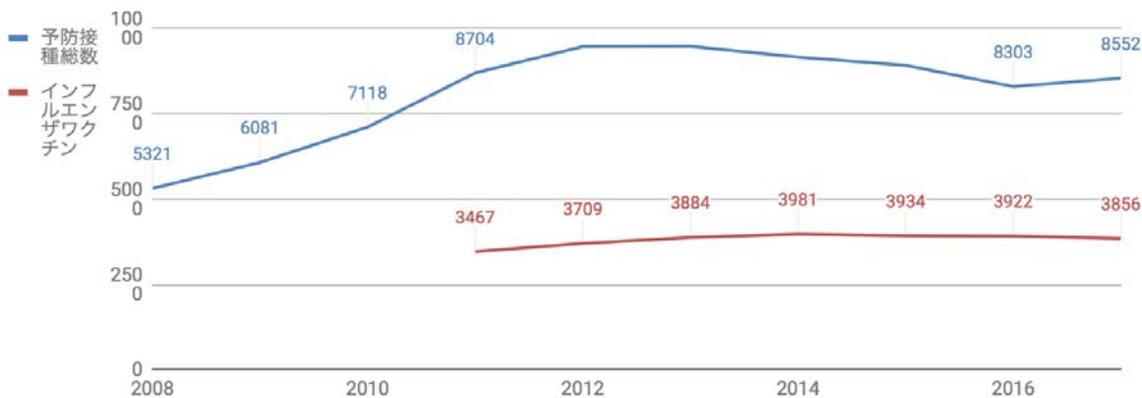
- ・接種総本数は約 8,552 本と、経年でやや減少傾向にあったものが、3 年ぶりに軽度増加にあった。2016 年 10 月から B 型肝炎ワクチンが定期化され、2017 年度は 1 年間その接種が行われたことや、日本脳炎の低年齢での接種や差し控え後の接種などもあり、それぞれの数が増えた。

- ・当院では家庭医としてあらゆる年代・ライフステージの患者様を対象としているため、扱うワクチンの種類も多岐にわたる。特に任意接種（2018 年 6 月現在）であるムンプスワクチンについては、4 年前からパンフレットなどを用い接種の推進を続けた結果、高い接種率が維持されている。2017 年度は帯状疱疹についてのパンフレットを新たに作成し、成人での水痘・帯状疱疹ワクチンの接種を呼びかける取り組みも行った。今後もそのような取り組みを続けていきたい。

- ・また、2017 年度では新たに、当院でパリビズマブ（シナジス®）の注射を実施する体制を整えた。今までは亀田グループ内では亀田クリニック小児科のみで行っていたが、当院での接種を希望する患者に対して、小児科から紹介を受けて行った。結果、4 名に 21 本の接種を行うことができた。2018 年度もさらに体制を整え、ニーズに答えていく予定である。

文責:久保田 希

予防接種 総数(年度別)



(6) 在宅

- ・当院は常勤指導医 5 名（在宅医療認定専門医 1 名を含む）と、複数人の後期研修医によるグループで在宅診療を行っている強化型在宅療養支援診療所である。がん患者の割合が多く緩和ケアを十分に提供していることから、2016 年度からは診療報酬改定に伴い“在宅緩和ケア充実診療所加算”の算定を開始した（施設基準：過去 1 年間の緊急往診件数 15 件以上、自宅看取り件数 20 件以上、PCA 導入 2 件以上など）。
- ・同施設併設の訪問看護ステーション、総合相談室、訪問ヘルパーステーションとの連携もあり、2006 年度の開設以後、5-7 割と高い自宅看取り率を維持している。
- ・毎週水曜に、緩和ケアカンファレンスと称して、亀田総合病院（以下 KMC）の緩和ケア科、在宅医療部の医師に、ターミナル期の症状緩和の方法や、鎮痛薬の使い方、代理意思決定支援など

の事例相談を行っている。毎週火曜に ARMEC カンファレンスと称して、安房地域医療センター（以下 ARMEC）総合診療科の医師と、在宅から入院になった事例のその後の経過や、退院計画の相談、新規で訪問診療導入を検討している方について情報共有を行なっている。

- ・2018年に向けては、小児在宅事例の受け入れができるように、環境調整を行う。

<新規導入件数>

- ・2017年度の訪問診療新規導入患者は計55件、うち、癌は28件（50.9%）であった（新規導入患者数：2014年度59件、2015年度62件、2016年度53件）。
- ・主な紹介元となるKMCやARMECと遠隔会議の実施や連携に努めた結果、当院在宅の認知度が高まったことも大きく関与していると考えられる。

<紹介元>

- ・紹介元としては、KMCから45.5%（25件）、ARMECから32.7%（18件）、KFCTから18.2%（10件）、その他2件であった。KMC、ARMECからの紹介が毎年ほぼ6割以上を占めており、高い自宅看取り率を維持しながらも、患者の状態や希望に応じ、随時レスパイト含めた入院受け入れなどの連携がスムーズなのが、当院在宅の強みともいえる。
- ・また、当院医師の鴨川出向時に、退院前の訪問やカンファレンスに参加したり、退院前カンファ実施のためにARMECへ訪問することを意識的に行っており、顔の見える関係づくりが病診連携を深める一因になっていると考える。
- ・2018年に向けた目標として、外来からのスムーズな在宅診療の移行を目指す。毎週のビジネスミーティングで、在宅導入を考える事例を挙げ、検討する仕組みを作りたい。

<定期訪問>

- ・定期訪問は計1194件（最高は10月で112件、最低は3月で87件、平均99.5件/月）、日中を含む臨時訪問は計210回（最高は1月で28件、最低は11月で11件、平均17.5件/月）だった。

<看取り>

- ・契約終了（死亡、入院、転院を含む）は計48件であり、そのうち、死亡による契約終了は41件であった。契約中の患者で在宅看取りを行ったのは33件（施設5件含む）（80.5%）、うち癌患者における在宅看取りは18/28件（64.3%）であった。

☆在宅看取り率＝在宅看取り件数÷契約中に死亡した全患者

☆癌患者の在宅看取り率(2006-2012)＝在宅看取りした癌患者÷契約終了した癌患者

☆癌患者の在宅看取り率(2013-2016)＝在宅*看取りした癌患者÷契約中の死亡した全癌患者

*：療養施設を含む

<遺族ケア>

- ・ご遺族のケアを行うため、2008年よりグリーフカードの送付を行なっている。カードは手書きで作成し、看取り後2ヶ月を目安にご家族にお送りしている。担当看護師がいれば看護師が作成するが、往診のみの場合や他の訪問看護が導入されている事例では医師が作成することになっている。
- ・上記に加えて、悲嘆反応（グリーフ）のケアを行うため、2018年度から亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科所属のチャプレンを指導に招き、遺族ケア外来を立ち上げる予定だ。また、職員のグリーフケアのレベルアップのため、遺族ケア外来の同日に、遺族ケア勉強会も開催予定となっている。

<2018 年度に向けての目標>

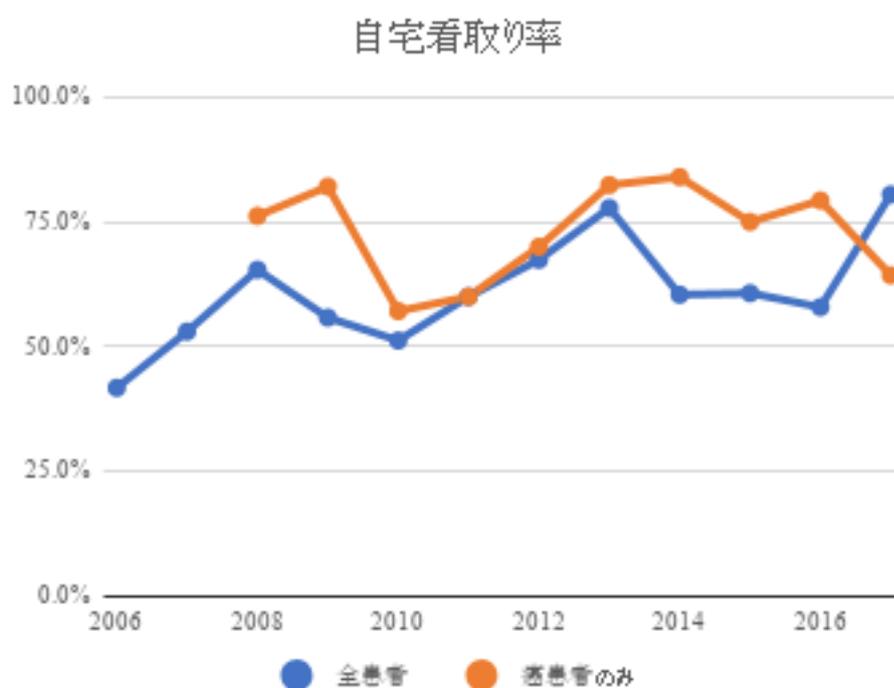
財務の視点「新規導入事例 55 例以上」

顧客の視点「医師担当分のグリーフカードの送付率 90%以上」

業務プロセスの視点「外来から在宅導入事例の安定化」月 1 例以上を目標とする

学習と成長の視点「遺族ケア勉強会の実施」実施回数と参加人数を評価

文責：吉澤 瑛子



(7) 透析

透析 2018 年 5 月末現在、透析室はベッド数 23 床、患者数 42 人、週 9 クール（月・水・金：午前午後、火・木・土：午前）で運営されている。のべ透析回数は 2017 年度 6083 回（2016 年度 6,815 回、2015 年度 6,977 回、2014 年度 6,537 回、2013 年度 6,936 回、2012 年度 7,151 回、2010 年度 7,444 回、2008 年 5,769 回、2007 年度 2,931 回）であった。2016 年 8 月よりオンライン HDF を開始、現在は 10 台分のオンライン HDF を行える機器を備え使用している。

定期採血を行い透析に関する検査項目を月 2 回確認している。また亀田総合病院から週 1 回腎臓内科専門医が来院するため具体的な相談を行うと共に、勉強会を定期的に行い、透析に関わる医師でガイドラインの確認や CKD-MBD のコントロールなどを個別に検討を行っている。透析の質評価の項目以外に、癌検診施行率、予防接種施行率など健康維持増進の取り組みや、糖尿病患者の眼科受診率を上げるため、2014 年より看護部と協力したシステム構築を行っている。

文責：田島 明野

4. 医師会受託事業

		2015年度	2016年度	2017年度
館山市	4ヶ月乳児健康診査	2	0	2
	1才6ヶ月乳児健康診査	4	1	2
	3歳児健康診査	5	10	7
	総合検診（特定健診）	3	3	3
南房総市	4ヶ月乳児健康診査	0	0	0
	1才6ヶ月乳児健康診査	3	3	2
	3歳児健康診査	1	1	1
	総合検診（特定健診）	7	6	6

文責：岩間 秀幸／粕谷 奈美

5. 教育、研修部門（2018年5月時点）

1) 修了生

2018年3月に16期生の4名（相田、岡田、久保田、年森）が3年間の後期研修プログラムを修了した。家庭医診療科の研修修了生は合計16期45名となった。

2) シニアレジデント、フェロー

第18期生6名を採用し、2017年度は合計12名のレジデントが在籍した。レジデント修了者4名が、フェローとして在籍した。

3) ジュニアレジデント

当院は亀田総合病院地域ジェネラリストプログラムの必修研修の場となっている。1年次4名、2年次4名の合計8名が当院で研修を行い、1ヶ月ずつのローテーションと、月2回半日の外来研修（ハーフデイバック）を継続して行った。また亀田総合病院内科系プログラムの初期研修医1名のローテーション研修を、1ヶ月受け入れた。

4) スタッフ

FDフェローを終えた氏川がスタッフとして着任した。

5) 見学、研修生

後期研修医を安房地域医療センター 地域ホスピタリストプログラムから1名(1ヶ月)、千葉大学医学部附属病院総合診療科後期研修プログラム（家庭医療コース）から1名(6ヶ月)、東海大学家庭医療後期研修プログラムから1名(6ヶ月)受け入れた。

外部からの見学、視察は以下の通り：

	2015年度	2016年度	2017年度
医師	2	7	4
後期研修医	9	5	7
初期研修医	10	6	20
学生	35	38	24
学生（2週間以上の臨床実習）	4	1	4

文責：岩間 秀幸／粕谷 奈美

6. 研究部門

学術関係の記録を参照のこと。

7. スタッフ

現在のメンバーの概要を以下に示す。2017年度修了式で、岩間秀幸がプログラムディレクターに就任することが発表され、2018年4月から着任した。経歴、資格、役職などは当院のホームページを参照されたい。メンバーは計22名＋非常勤11名（2018年6月現在）である。

■部長（院長兼任）

岡田 唯男

■プログラムディレクター

岩間 秀幸（12期生） 教育部門統括

■スタッフ

医長 吉澤瑛子（11期生）在宅部門統括

医長 上松東宏（フェロー修了）外来部門統括

医員 田島明野（14期生）マタニティ、透析部門統括

伊藤彰洋（ファミリーメディスン株式会社、非常勤）

松岡角英（ふさのくに家庭医療学センター、非常勤）

川島かおる（非常勤）

吉田賢史（西嶋医院、非常勤）

織田暁寿（ホームクリニック柏、非常勤）

菅長麗依（幕張クリニック、非常勤）

塩田正喜（河北総合病院、非常勤）

高橋亮太（非常勤）

■フェロー（4名）

年森慎一（16期生）スポーツ部門担当

相田万実子（16期生）リハビリ部門担当

久保田希（16期生）予防接種部門担当

岡田悠（16期生）マタニティ部門担当

■後期専門研修医（3年間、10名）

17期生 坂井雄貴、宮本侑達

18期生 金久保祐介、河田祥吾、常石大輝、伊豆倉遥

19期生 高島大樹、濱田春樹、久保伸貴、近藤慶太、高岡沙知、山田美登里

■非常勤

小原まみ子（腎臓高血圧内科 コンサルタント）

市河茂樹（小児科 コンサルタント）

大内洋（スポーツ医学科 コンサルタント）

■初期研修（8名）

（地域ジェネラリストコース7期生）

鈴木崇浩、山木良輔、西明博、小川尋海

（地域ジェネラリストコース8期生）

堤俊太、菊池真由、赤穂良晃

■ 出向スタッフ

本山哲也 (7期生)	北京 21 世紀病院
水谷佳敬 (9期生)	さんむ医療センター
勝山陽太	さんむ医療センター
濱井彩乃 (11期生)	安房地域医療センター
金城謙太郎	森の里病院
張耀明 (14期生)	新島村国民健康保険本村診療所

文責：岩間 秀幸／粕谷 奈美

8. 教育、勉強会関係など

当院は教育プログラムを有し、研修医が多く、他施設からの研修生も多く受け入れている。これにより院内は活性化し、常にお互い学び合う文化の醸成と患者ケアの質向上に邁進している。

<後期研修プログラム>

「亀田家庭医総合診療専門医プログラム」は、2013年度より正式に4年プログラムとなった。日本プライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラムとして登録し運用しており、毎年3-4名の後期研修医を採用してきた。2018年4月からの新専門医制度の開始に合わせて、安房地域医療センターと連携し6名の定員に増員した。プログラム要件として、内科、小児科、救急などの経験が要求されており、亀田総合病院・安房地域医療センター・さんむ医療センター等の各科の協力を得て教育・運営を行っている。他、腎臓内科、産婦人科、在宅医療、リハビリテーション、緩和ケア、スポーツ医学などの各科を研修し、KFCTでの外来・訪問診療・透析の業務に携わっている。

<フェローシッププログラム>

- ・KFCT FD (faculty development) フェローシッププログラム(1-2年間)
- ・General Practitioner with Special Interest(以下 GPwSI) fellowship(1-2年間)

の2つのフェローシッププログラムを提供しており、2018年度からはResearch fellowship program (リサーチフェロー)を開始する。

2017年度は氏川・玉野井・山下がFDプログラムに参加した。家庭医療・Teaching improvement・Academic and Career development・Leadership and management・Researchの5つの要素について月1回small discussion形式で実践的に学習した。研修修了判定は口頭試問およびOn the jobでの評価で行い、全員が合格し修了した。FDプログラムから、ホームページ開設プロジェクト、糖尿病性網膜症の眼科受診啓発・研究プロジェクト、シナジス接種プロジェクトなどが生まれた。また専門医試験には高橋も含めて4名の卒業生が全員合格し、山下は優秀ポートフォリオ賞を受賞した。

<初期研修医教育>

地域ジェネラリストプログラムの初期研修医を、1ヶ月×2回のローテーション研修、月2回半日の外来研修で受け入れている。他、骨太プログラムの研修医のローテーション研修の受け入れも行っている。

坂井(17期)、安藤(ARMEC)、吉澤を中心に初期研修プログラムの再検討が行われ、研修プログラムを改善した。具体的には、指導資料やローテーションの心得、外来での決まりごとなどを整備、メンターによるサポートの質の担保、家庭医療のコアについて振り返り、ビデオフィードバック等を定期プログラムに組み込んだ。またレジデントデイへの参加など、教育体制を強化しており、初期-後期の

研修の連続性が期待される。

<勉強会・カンファレンス>

院内医師向けの勉強会としては、「AFPカンファレンス」「患者共有カンファレンス」「マタニティカンファレンス」「ポートフォリオ勉強会」などがある。

院内多職種での勉強会として、「透析カンファレンス」「在宅カンファレンス（デスクンファ・シェアカンファ）」「リハビリカンファレンス」を行っており、各種業務に関連し活発な議論を行っている。

院外も含む多施設・多職種の勉強会では、「小児リハビリカンファレンス（特別支援学校やマザーズホームの職員、養護教諭が集まり、発達障害児について情報共有を行う）」「思春期勉強会（養護教諭が集まり思春期の生徒について扱う）」を主催している。

<レジデントデイ>

他科ローテーションで院内レクチャーやポートフォリオ勉強会に参加できないというレジデントの声を反映させ、2015年より年3回土曜午後の時間に全専攻医が集まって学んでいる。岡田院長のレクチャー、外来ビデオレビュー、拡大ポートフォリオ等を行った。

ディスカッションを中心に家庭医療学を深く学び（Deep learning）、終了後は懇親会を行って日常の悩みや課題を学年を超えてサポートしている。岡田院長レクチャーからはプライマリ・ケア学会の夏期・冬期セミナーの題材となる新たな亀田家庭医の強みとなるコンテンツが生まれた。

<メンター制度>

2015年度より導入していたメンター制度を2016年5月より本格的に開始した。専攻医1人1人に上級医が年間を通してメンターとしてつく通年メンターを設定した。メンターは月1回以上、学会の研修手帳を用いて振り返りを行いながら学習目標や到達度の確認を共に行い、また日常生活で困っていることの相談があった。定期的に専攻医から指導医へのフィードバック体制を設け双方向性の指導としている。

<多職種の教育>

医学生、看護学生、リハビリテーション療法士の学生など、多くの研修者が来院する。この際、各部署内での教育に加え、他の職種の職場でも研修し、学生時代から多職種連携を学ぶ機会を提供している。

2016年より毎週金曜日に家庭医療看護師勉強会を開始した。外来の事前相談や看護介入などの新たな医師・看護師の協働プロジェクトが生まれた。2017年には加藤早里佳看護師がプライマリ・ケア学会学術集会で発表を行った。

文責：岩間 秀幸／粕谷 奈美

看護室

（準備中）

訪問看護ステーション館山

1. 2018年度目標

1) 財務の視点

介・医保険のダブル改定後にて、コスト意識を改めて徹底する。具体的には新規依頼の際の退院時共同指導加算をしっかりと算定していくことで、安心して利用者・家族が退院できるようサポートする。

2) 顧客の視点

安全なケア提供を実施するため、どのスタッフが訪問しても同じケアができるように看護計画を作成することはもちろん、そのケア内容をしっかりと本人・家族へ説明し、同意を得ていく。その為に事前契約を意識的に実施していく。

3) 内部プロセスの視点

ISO 取得に向けて、改めて業務規定を整備する。

4) 学習と成長の視点

法改定に伴って、具体的な変更事項の共有や、そこから読み取れる地域での訪問看護の役割を改めて認識していく。

2. 2017 年度事業評価

1) 財務の視点

地域事業所の顔の見える関係も構築されてきており、月平均 4.4 件の新規依頼があった。

2) 顧客の視点

リハビリスタッフとの情報共有の他、技術指導も双方向から実施でき、利用者へ還元できる体制作りができています。

3) 内部プロセスの視点

部門内食事会やレクリエーションの実施により、職場内コミュニケーションも増えた。チームメンバーの特性をスタッフ各自が把握し、仕事量の調整など、助け合いができた。

4) 学習と成長の視点

スタッフからの事例発表を通して、そこから何を学んだのか、ナレッジ共有をすることができた。

3. スタッフ構成

所長：鈴木健一

他、看護師：4名

作業療法士：2名（兼務）

理学療法士：1名（兼務）

4. 業務内容

1) 予防看護・地域看護・終末期看護・緩和ケア・家族看護・リハビリテーション等

患者さまの想いに添い、期待以上のサービスを提供するために主治医や、その他関連職種との密な連携のもとに看護実践をしている。

2) 24 時間緊急時対応体制

患者さまやそのご家族からの連絡（状態の変化や療養上の不安等）に、主治医と連携を図りながら対応できる体制をとっている。

5. 事業実績

1) 依頼経路

2017 年度、新規導入に至ったのは 76 名であった。依頼先の内訳として亀田総合病院から 23 名（約 30%）、安房地域医療センターから 30 名（約 39%）、併設する亀田ファミリークリニック館

山から15名（約20%）、亀田リハビリテーション病院から1名（約1%）それ以外から7名（約10%）であった。

それ以外とは、地域の開業医などからの依頼であった。

2) 新規依頼患者の内訳

新規登録者の内リハビリのみの導入が26名、訪問看護導入は50名であった。全76名の内31名（約41%）が担癌患者である。癌以外の疾患としては、神経難病12名、脳血管系7名、消化器系7名、循環器疾患4名、呼吸器疾患6名、認知症3名、その他6名となっている。

3) 転帰

利用患者さまの転帰の多くが死による終結である。2017年度は79名が訪問看護（リハビリ含む）の利用を終了した。その内の49名（約62%）が死による終結であった。亡くなった方の内31名（約63%）は自宅で最期を迎えている。亡くなった方の内、主病名が癌であった方は28名であり、自宅看取りをした方は20名（約71%）であった。

医師・その他関連職種との連携が機能し、自宅での看取りを実現可能としている。

4) 訪問件数

2017年度年間延べ訪問件数は4273件であった。そのうちの1621件（約37%）はリハビリのみの訪問である。

介護保険と医療保険の割合では、医療保険が約42%を占め、医療依存度の高さがうかがえる。

5) 緊急時連絡対応件数

訪問看護師が交代で拘束対応しており、電話連絡を受けている。その内容に応じて医師と連携を図り対応している。

2017年度に臨時訪問した回数は244件であった。

主な内訳は排泄関係件64（約26%）、ターミナル関係45件（約18%）、カテーテルトラブル関係15件（約6%）、発熱26件（約11%）、その他94件（約39%）であった。

その他の内訳としては、外傷、家族不安、ケア代替、急な体調変化（意識状態の変調や、急な疼痛出現など）であった。

6. カンファレンス・連携

1) 在宅朝会 毎朝

在宅担当医、訪問看護師、ケアマネージャー、リハビリ等が参加し、前日の訪問内容を報告し、情報の共有を図っている。

2) 在宅夕カンファレンス 毎夕

当日の訪問（診療・看護）についてディスカッションを実施し、方針の決定等を行う。

3) 在宅全体カンファレンス

関係職種（医師、看護師、リハビリ、ケアマネージャー等）が集まり実施。

・シェアカンファレンス 月1回

困難事例への対応や、方針設定などを実施。

・デスカンファレンス 月1回

亡くなった患者さまの振り返りを実施。その後グリーフカードを作成し送付している。

4) 在宅改善カンファレンス 不定期

既存の在宅業務内容を評価、修正し業務改善を図っている。

5) 他院との連携

地域の開業医等から患者さまの紹介、導入の相談が適宜発生しており、各施設のソーシャルワーカーや担当医師、看護師との連携を図り対応している。

文責：鈴木 健一

リハビリテーション室

(準備中)

事務室

1. 2018年度の目標及び方針

【医 事】

1) 財務の視点

- ・保健証登録誤りによる返戻を減らし、レセプト保留件数の減少に努める。

2) 顧客の視点

- ・受付における待合・診察室への案内誤り、案内不足を減少し、患者さまへわかりやすい説明を心掛ける。

3) 内部プロセスの視点

- ・効率的に業務を行えているか手順の確認、評価を行う。

4) 学習と成長の視点

- ・千葉県民間病院協会主催の医事勉強会に積極的に参加する。また、事務室内での勉強会を計画開催し、業務担当以外の専門知識習得に努める。

【総 務】

1) 財務の視点

- ・年間当期純利益予算について、前年度を上回ることを目指して経費管理をする。

2) 顧客の視点

- ・ご意見への回答率を90%以上とする。

3) 内部プロセスの視点

- ・規程の確認及び見直しを図り、ISO9001認証を取得する。

4) 学習と成長の視点

- ・職員研修へ積極的に参加して、目標単位を取得する。

【経 理】

1) 財務の視点

- ・月次締め後の損益管理表の確認、精査を早急にする。

2) 顧客の視点

- ・患者満足度調査の実施。

3) 内部プロセスの視点

- ・出張費支払システムの導入。

4) 学習と成長の視点

- ・職員研修へ参加し、年間目標を達成する。

【診療室事務】

- 1) 財務の視点
 - ・ 医師増員に伴う外来診療枠の増列と訪問診療枠の増列を行う。
- 2) 顧客の視点
 - ・ 医師事務作業の改善と充実を行う。
- 3) 内部プロセスの視点
 - ・ 亀田総合病院 診療部事務室との情報や業務内容の共有を行う。
- 4) 学習と成長の視点
 - ・ 業務に必要な能力向上を計画的に行う。

2. 2017 年度評価

- 1) 財務の視点
 - ・ 予算数値と対比しまして、設備関係費や消耗品が減額となり、予算利益達成の一因となった。
- 2) 顧客の視点
 - ・ 毎月第 4 木曜日に開催されます当クリニック内各委員会へ参加して、各委員会の課題に取り組んだ。
- 3) 内部プロセスの視点
 - ・ I S O 認証取得に向けて、文書規程の確認作業を図った。
- 4) 学習と成長の視点
 - ・ 千葉県民間病院協会主催の医事業務研究会が 2 ヶ月に 1 回となり、毎月参加の目標が達成できなかったが、各委員会主催の職員研修（医療安全管理・感染管理・防災）へは参加した。

3. 業務紹介及びスタッフ数（平成 30 年 3 月 31 日現在）

1) 業務紹介	2) スタッフ数 計 15 名
①受付・会計業務	①医療事務業務 10 名（定時職員 1 名含）
②レセプト請求業務	②総務事務業務 1 名
③予約受付業務	③経理事務業務 1 名
④クリニック統計業務	④診療室事務業務 1 名
⑤総務業務	⑤運転・営繕業務 2 名（定時職員）
⑤ 経理業務	
⑥ 医局業務	

文責：佐藤 直人

歯 科 セ ン タ ー

1. 2018 年度目標

- 1) 財務の視点
 - 業務を簡素化して安全に務めるように常に検討する。
 - コストパフォーマンスを意識し、件数の 3% 増加を目指す。
- 2) 顧客の視点
 - インフォームドコンセントをわかりやすく十分に行い、患者様の満足度をアップさせる。
- 3) 内部プロセスの視点
 - スタッフミーティングにて、症例検討会、意見交換、問題点の抽出し、検討する。

4) 学習と成長の視点

医療従事者に求められる研修会や勉強会に積極的に参加して個人の成長を図る。

2. 2017 年度総括

1) 財務の視点

常勤歯科医師の減員により件数が 6%減少したが、年度末には 0.06%減少までに改善した。

2) 顧客の視点

満足度調査の結果から改善点を検討、実施している。

3) 内部プロセスの視点

毎週スタッフミーティングを行い日々の問題点を抽出し検討している。

4) 学習と成長の視点

自主的な勉強会や研修会に積極的に参加している。

3. スタッフ構成

歯科医師数：常勤 2 名 非常勤 6 名

歯科衛生士：8 名

歯科助手：5 名

歯科技工士：2 名

4. 診療内容

ユニット・チェア数 8 台、カウンセリング室、小手術用オペ室完備。

一般歯科：虫歯や歯周病の治療、義歯など補綴物の作成

小児歯科：子供の歯科治療

矯正歯科：歯並びの治療

口腔外科：外来処置が可能な外傷、炎症、腫瘍。顎関節症、鎮静下での歯科治療。

デンタルインプラントなど

審美歯科：ホワイトニング、ラミネートベニア、オールセラミック

5. 診療実績：

再生療法 8 症例、インプラント 10 症例、埋入総数は 17 本であった。

6. 教育

ドクターカンファレンス

歯科センターとして歯科医師個人としての診断や治療計画の立案および治療手技の向上を目的として月 2 回火曜日に症例検討会を行い、積極的に意見交換や確認を行っている。

スタッフミーティング

スタッフ一同働きやすい環境作りと患者さまの満足度を上げることを目的として月 2 回火曜日に歯科衛生士、助手および技工士にて日々の問題点を抽出し、検討している。

文責：小澤 重人

委員会活動

2011年度からクリニック内の部署を超えた横断的連携を目的とし、月1回1時間の委員会活動が開始された。

各委員会の名称と活動内容、実績は以下のとおりである。

医療安全委員会

1 委員構成

委員長 福原 卓

副委員長 遠藤 愛歌

委員 計 12名

2 委員会開催回数 9回（毎月第4木曜日16時より）

3 活動実績

○看護室での転倒チェックスクリーニング運用開始

○毎月各部署で発生したインシデントの内容、対応策の確認

○KFCT内医療安全巡視実施（平成29年8月7日～12日）

○医療安全研修会

・第1回目 DVD上映「医療機関のリスクマネジメント クレーム対応」

日程：12月5日、12月13日

・第2回目 講師：相田医師「KFCTでの院内緊急対応を考えよう」

日程：2月6日、2月21日

4 申送事項

○上記活動の継続

○インシデントフォローアップ（レベル2以上）の議事録記載（医療監視で指摘あり）

感染管理委員会

1 委員構成

委員長 中平智子

副委員長 吉田憂子

委員 玉野井徹彦 岡田悠 鈴木早苗 金井宏美

岡本美友 石井俊之 金井貴子 大友可奈 計 10名

2 委員会開催回数 10回（毎月第4木曜日16時より）

3 活動実績

(1) 手指衛生モニタリング

(2) 院内研修の実施（6月、10月、1月）

(3) 院内の感染ポスターの見直し

(4) 院内環境ラウンド、各部署にフィードバック

4 申送事項

(1) 手指衛生遵守率向上活動

モニタリングの継続

研修など

(2) 環境ラウンドの継続

各部署の環境チェック表の作成

(3) 感染委員の教育

院内感染対策マニュアルに目を通す

感染対策について統一した知識を身につけられるようにする。

防災委員会

1 委員構成

委員長 佐久間華奈

副委員長 渡邊務

委員 川崎隆、松坂喜美代、河野真由美、大井美紀、小藤田吏絵、

金久保祐介、小川沙織、田島明野 計 10 名

2 委員会開催回数 10 回（毎月第 4 木曜日 16 時より）

3 活動実績

- (1) 自衛消防隊行動指針の見直し
- (2) 消防訓練の実施（6 月・12 月）
- (3) 消防用設備等自主点検の実施（9 月）
- (4) 地震・津波時フローチャートの確認
- (5) 災害警報発令基本方針完成

4 申送事項

- (1) 地震・津波時フローチャート（案）の見直し後の手直し
- (2) 津波避難訓練の実施の検討（全体）
- (3) 防災委員の教育

連絡係・消火係・避難誘導係等について、防災委員各自がある程度精通できるようにする。

ア 火災警報システム

イ 非常放送設備

ウ トランシーバー

エ 防火シャッタースイッチ

オ 屋内消火栓の位置

カ その他

(4) 緊急連絡網の訓練実施

非常勤のスタッフや産休の人を入れるかどうか検討する

災害があったときに一番困るのが水なので、非常時持ち出し用の水を各自用意するよう伝える

広報委員会

1 委員構成

委員長 粕谷奈美

副委員長 川島礼子

委員 山下洋充、坂井雄貴、富川志乃布、渡邊結花、（上川万里子、

宇佐美奈々、鈴木藍）小池沙織、鈴木恵美、若佐由香里、

山下遼、高川幸恵 計 11 名

- 2 委員会開催回数 10 回（毎月第 4 木曜日 16 時より）
- 3 活動実績
 - ・ 院外報の編集及び発行
 - ・ 院内報の編集及び発行
 - ・ ホームページの管理
- 4 申送事項
 - ・ 院外報の編集及び発行
 - ・ 院内報の編集及び発行
 - ・ ホームページの管理
 - ・ 10 日締切を厳守できるよう 365 を利用し、早めの依頼や呼びかけを行う。
 - ・ PC のデスクトップの管理

CQI 委員会

- 1 委員構成
 - 委員長 庄司裕子
 - 副委員長 浅井史織
 - 委員 計 10 名
- 2 委員会開催回数 9 回（毎月第 4 木曜日 16 時より）
- 3 活動実績
 - (1) 医科・リハビリ・歯科センターの患者満足度調査を行った。
結果を院内掲示板と待合室に掲載した。
 - (2) 職員満足度調査を行った。次年度に対策を進める事とした。
 - (3) 待合室の案内板の設置
 - (4) 経費削減プロジェクトの継続（エアコン設定温度の管理）
- 4 申送事項
 - (1) 患者満足度調査の継続
 - (2) 職員満足度調査の問題点と対策
 - (3) 在宅部門の満足度調査のお手伝い
 - (4) 患者様の集える場所、飲料水の設置場所の検討

催事・レク委員会

- 1 委員構成
 - 委員長 加藤早里佳
 - 副委員長 西山新治
 - 委員 忍足めぐみ、仲島友子、穂積和代、吉田由美、笹生恵一、
宮本侑達、長谷川和江、松井孝悦 計 10 名
- 2 委員会開催回数 9 回（毎月第 4 木曜日 16 時より）
- 3 活動実績
 - (1) 新人歓迎会の実施
 - (2) 研修会の実施・評価

(3) 作品展の実施・運営方法の改定

(4) 忘年会の実施

4 申送事項

(1) 研修会準備において医師の協力が必要

(2) 作品展に関して準備や飾り付けが時間外で動き、手伝いを募っているため、
次年度の展示は委員会の時間で行っていく

(3) 年間スケジュールは同じでいくためイベント実施場所を早く予約する

(4) 各行事毎に担当部署を決めていたが、人数も少ないため、次年度は
各行事内で担当を振り分けることにする

地域活動委員会

1 委員構成

委員長 渡邊利恵子

副委員長 高木奈央子

委員 上松東宏、年森慎一、仲山久美子、永久保珠絵、大矢早苗、
大井香、小磯なを美、畔上紗希、上川万里子 計 11名

2 委員会開催回数 10回（毎月第4木曜日16時より）

3 活動実績

(1) 院外健康教室計画・開催

・第1回 院外健康教室

日時：平成29年8月

場所：館山市 元気な広場

テーマ：「子供の病気やケガについて」

夏も後半戦！ 元気に駆け抜けるための知恵袋！

～汗にも負けず、風邪にも負けず、虫にも夏の暑さにも負けず～

講師：年森慎一 医師

・第2回 院外健康教室

日時：平成30年2月22日

場所：館山市 元気な広場

テーマ：「遊びを通して考える子供の発達」

～楽しく遊んで“できた！”を増やそう～

講師：永久保珠絵 作業療法士

(2) 院内スタンプラリー検討

館山市 健幸ポイントを掲示することにより対応

4 申送事項

CSR活動として北条海岸 Beach Clean活動を計画

衛生委員会

衛生委員会

1 委員構成

委員 岩間秀幸 鈴木早苗 川崎隆 西山新治 佐藤直人 高橋亮太 計6名

(産業医 高橋亮太 衛生管理者 岩間秀幸)

(委員長・副委員長 指定なし)

2 委員会開催回数 9回(7月から開始:月1回不定期開催。水曜日15時より)

3 活動実績

(1) 衛生委員会活動目的の設定

(2) 産業医の指定、衛生管理者の指定

(3) 衛生委員会の開催

(4) 平成30年度衛生委員会活動計画の作成

(5) 職場巡視の試行(看護処置室)

(6) 職場巡視 年間計画の作成

(7) 亀田総合病院 衛生委員会スタッフ(産業医、衛生管理者、職員厚生課事務職員)との打ち合わせ

4 申送事項

(1) 新年度への業務引継

平成30年度より通常の委員会日での開催となる。委員の交代、新たに委員を選出する部署あり
確実な業務引継の実施をお願いする。

(2) 定期健康診断結果の共有

健康診断結果は個人情報であり、結果共有には事前に被検者にお知らせと同意が必要。また、亀田
総合病院 衛生委員会スタッフとの調整が必要。

(3) メンタルヘルスチェック結果の共有

定期健康診断結果と同様。事前にお知らせと同意が必要。また、亀田総合病院 衛生委員会スタッフ
との調整が必要。

ISO委員会

(準備中)

文責:岡田 唯男/佐藤 直人

学 術 関 係

1) 原著論文 (Original Articles, Refereed Articles, Systematic Reviews)

2) 出版 (分担執筆、翻訳も含む)

1. 岡田唯男. 編集 Gノート 患者にきちんと届く!届ける!予防医療プラクティス 2017年4月 vol.4 No.3 羊土社

3) 原著論文以外 (総説, Review, Thesis, 依頼論文, コラム, 手紙, 報告など)

1. 岡田唯男. 「特集にあたって」Gノート 2017年4月 vol.4 No.3 p534-537 羊土社
2. 岡田唯男. 「エビデンス-診療ギャップとエビデンス・パイプライン」Gノート 2017年4月 vol.4 No.3 p557-565 羊土社
3. 張耀明. 「医師の行動変容~患者さんの健康と社会への貢献のために」Gノート 2017年4月 vol.4 No.3 p575-581 羊土社

4. 東拓弥(R), 山田慎. 「3 運動器検診に呼ばれたら? —亀田式運動器メディカルチェック」 Jmedmook50 あなたも名医! 知っておこうよ、スポーツ医学 2017年6月 p13-20 日本医事新報社
 5. 濱井彩乃. 「2 喘息があるのですが運動しても大丈夫?—喘息患者のスポーツ参加をサポートするために」 Jmedmook50 あなたも名医! 知っておこうよ、スポーツ医学 2017年6月 p164-169 日本医事新報社
 6. 岡田唯男. 「ここがダメだよ!!診療所の対策 専門家が教える医療安全のツボ④プライマリ・ケア 実害が見えづらいからこそ患者安全に最大限の注意を払うべし」 ばんぶう 2017年10月号 Vol.439 p30-31 日本医療企画
 7. 岩間秀幸. 「“匠”を目指すための9つのワザ ⑦子育て相談」 総合診療 2017年12月 vol.27 No.12 p1657-1661 医学書院
- 4) 学会、研究会発表
1. 坂井雄貴. ポスター FP117 「Evaluation of Expectation and Satisfaction of Residents in aFamily Medicine Rotation in Japan」 STFM Annual Spring Conference San Diego, CA, 92101, USA 2017年5月5日~9日
 2. 鈴木早苗(N). ポスター 2卒前教育(学生教育)① P-008 「大学教育と連動したクリニックにおけるプライマリ・H・ケア実習の実践—新卒者が就職先に選択できる職場—」 第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
 3. 坂井雄貴. ポスター 国際キャリア支援委員会企画(ポスター) PI-3 「The Current Status and Future Perspective of Social Prescribing in the UK and Japan」 第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
 4. 山下洋充. ポスター 25性差医療(男性・女性ケアなど)・メンタルヘルス P-147 「日本におけるMen's health教育に関する文献レビュー」 第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
 5. 上川万里子(N). ポスター 25性差医療(男性・女性ケアなど)・メンタルヘルス P-149 「助産師と家庭医の連携による産後家庭訪問」 第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
 6. 山下洋充. ポスター 25性差医療(男性・女性ケアなど)・メンタルヘルス P-151 「Men's healthをどのように学ぶか~Men's healthワークショップ開催の報告~」 第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
 7. 田島明野. ポスター 30在宅医療③ P-181 「全結腸切除後の人工肛門患者において5年後に初めて盲端の直腸部から分泌物あり直腸炎と診断された一例」 第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2017年5月14日

8. 岩間秀幸. ポスター 51 多職種連携② P-305「家庭医療看護師勉強会の立ち上げと勉強会がもたらした多職種連携・業務改善」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2017年5月14日
9. 加藤早里佳(N). ポスター 51 多職種連携② P-306「プライマリ・ケア看護学の勉強会が診療所看護師の自信や誇りに与える影響」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 浅草 2017年5月14日
10. 岡田唯男. ポスター 15 地域医療教育(卒前・卒後)③ P-15-06「家庭医療専門研修における「地域・コミュニティーをケアする能力」のカリキュラムの開発と評価(総論)」第49回日本医学教育学会大会 札幌 2017年8月18日
11. 岩間秀幸. ポスター 15 地域医療教育(卒前・卒後)③ P-15-09「家庭医療専門研修における「地域・コミュニティーをケアする能力」のカリキュラムの開発と評価(各論)」第49回日本医学教育学会大会 札幌 2017年8月18日
12. 年森慎一. ポスター「本当の「顔の見える関係」をめざして ～「安房秘密基地 Project」の取り組み～」南房総リハビリテーション・ケア文化祭 館山 2017年10月14日
13. 上松東宏. ポスター Primary care and family medicine「Managing hemodialysis in a patient with 21 trisomy:A Case Report」WONCA ASIA PACIFIC REGIONAL CONFERENCE 2017 2017年11月1日～4日
14. 岡田悠. ポスター SRF050「A Comparison of Cancer Screening Rates From a Japanese Family Medicine Continuity Clinic Chart Review and National Survey」2017 NAPCRG Annual Meeting Montreal, Quebec 2017年11月17日～21日
15. 山下洋充. ポスター SRF153「Effect of Honey and Dextromethorphan on Cough Derived From Common Cold of Adults:A Randomized Controlled Superiority Trial」2017 NAPCRG Annual Meeting Montreal, Quebec 2017年11月17日～21日
16. 氏川智皓. ポスター SRF219「A Quality Improvement Project to Increase the Rate of Screening for Diabetic Retinopathy」2017 NAPCRG Annual Meeting Montreal, Quebec 2017年11月17日～21日
17. 濱井彩乃. ポスター メディカルサポート③ 1-2-P13-3「トライアスロン競技における「ローリングスタート」の導入が大会参加者に与える影響」第28回日本臨床スポーツ医学会 学術集会 東京 2017年11月18日
18. 岩間秀幸. ポスター P-4「診療補助事務による医師・看護師業務の軽減」第6回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会 埼玉 2017年11月19日
19. 年森慎一. ポスター P-14「安房地域における社会的処方(Social prescribing)の可能性 ワークショップ「あなたの“好き”を、処方する ～暮らしの処方箋～」活動報告」第6回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会 埼玉 2017年11月19日

20. 久保田希. ポスター P-16「一般内科外来における看護師によるトリアージシステムの導入の効果と今後の展望」第6回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会 埼玉 2017年11月19日

5) 招待講演, ワークショップ, 講師など学術関係

1. 鵜飼万実子. 講演「“後期研修サポート系”企画 リハ入門」第24回 関東家庭医療ネットワーク 勉強会 東京 2017年4月5日
2. 久保田希. WS「「いき」残る組織づくりへのキャリアマネジメント～組織キャリアマネジメントと個人のキャリア支援の統合」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月12日
3. 岡田唯男. 教育講演「医療の質・患者安全についての基本的知識（医療の質・患者安全委員会企画）」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
4. 坂井雄貴. シンポジウム「若手医師交換留学プログラムのこれまでとこれから（日英/日韓/FM360/RM）国際交流のススメ～日英プライマリ・ケア交換留学プログラム参加を通して～」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
5. 鵜飼万実子. WS「リハビリテーション科医とプライマリケア医コラボ企画 リハ入門」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
6. 水谷佳敬. 吉澤瑛子. 田島明野. 森本美登里. WS「妊娠・授乳中の処方と考え方」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
7. 水谷佳敬. WS「目指そう PCOG プロバイダー：BLS0 アドバンスセミナー」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
8. 菅長麗依. WS「あなたの患者さんの旅行は安全ですか？Basic course 1 プライマリケアでの渡航リスクマネジメント」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月13日
9. 加藤早里佳(N). WS「FPNs 企画第3弾～地域の架け橋となる診療所看護師を育てるには？」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月14日
10. 岡田唯男. 教育講演「プライマリ・ケアにおける押さえておきたい古典的文献（学会のあり方・知的活性化プロジェクトチーム（通称チーム岡田）企画）」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月14日
11. 鵜飼万実子. インタレストグループ「みんなでつくろう！他科研修の“たかまつ”アイデア集！～家庭医療後期研修における有意義な他科研修とは～」第8回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会 高松 2017年5月14日
12. 岡田唯男. 講演「発達障害児童生徒への対応について」安房地方学校保健会 千葉県教育庁南房総教育事務所南総研修所 2017年6月1日
13. 吉澤瑛子. 鵜飼万実子. 岡田悠. 年森慎一. 常石大輝. 安藤崇之. WS「亀田家庭医・総合診療医ワークショップ」東京ビッグサイト 2017年6月18日

14. 玉野井徹彦. 講師「熱中症対策等について」館山市シルバー人材センター 館山市コミュニティーセンター 2017年6月23日
15. 菅長麗依. 講師「ERにおける女性の感染症」IDATEN サマーセミナー 札幌 2017年7月29日
16. 年森慎一. 講師「総合診療等を目指す後期研修医・専攻医のキャリアについて」第15回愛媛済生会病院研修医セミナー 今治国際ホテル 2017年8月5日
17. 坂井雄貴, 宮本侑達, 金久保祐介. WS「亀田流!家庭医外来研修リターンズ~初期研修医でも家庭医になれる!?!~」第29回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー 長浜 2017年8月5日
18. 鵜飼万実子. WS「家庭医に必要なリハビリテーション医学のエッセンス」第29回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー 長浜 2017年8月6日
19. 菅長麗依. WS「プライマリケア医のためのウイメンズヘルス」練馬光ヶ丘病院 2017年8月19日
20. 上松東宏. 講師「夢を抱いて学生生活を送ろうー海外留学の経験を語る」愛知医科大学学長招聘講演会 愛知 2017年9月20日
21. 菅長麗依. WS「あなたの患者さんの旅行は安全ですか?~Basic course プライマリケアにおける渡航に伴うリスクマネジメント~」第15回 秋季生涯教育セミナー 大阪科学技術センター 2017年11月10日
22. 菅長麗依. 講師「臨床推論」岡山大学医学部医学科 総合内科 臨床講義 2017年11月23日
23. 年森慎一. 講師「患者に寄り添う医療とは~千葉県館山市亀田ファミリークリニック館山における医療について~」宇和島市在宅医療介護連携啓発事業 宇和島 2017年12月2日
24. 水谷佳敬(講師). 吉澤瑛子(ファシリテーター), 東邦大学ジェネラリストセミナー 東京都大田区 2017年12月3日
25. 鵜飼万実子. 講師「第2回 Chiba Clinical Skills Boot Camp 2017 December」 千葉 2017年12月10日
26. 菅長麗依. web 配信講師「外来抗菌薬の使い方・考え方 第1~3回」札幌医科大学 地域医療総合医学講座主催 プライマリ・ケアレクチャーシリーズ PCLS 2018年1月18日, 25日, 2月1日
27. 小池沙織(R). 講演「嚥下障害について」安房地域介護関係者のつどい 館山 2018年2月4日
28. 相田(鵜飼)万実子. WS「リハビリテーション科医とプライマリケア医コラボ企画 リハ入門」第13回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー 東京 2018年2月10日
29. 年森慎一. 久保田希. 講演「実症例から学ぶ~この症例をどう考える~」安房認知症セミナー2018 館山 2018年3月9日

6)その他

*受賞、助成金獲得など

1. 日本プライマリ・ケア連合学会 2017年度優秀ポートフォリオ賞 山下洋充
2. 亀田総合病院 2017年度家庭医診療科内 BEST 指導医 宮本侑達
3. 安房地域医療センター 2017年度 BEST 指導医(KFCT) 吉澤瑛子

*委嘱事業

1. 岡田唯男. 嘱託講師 島根大学医学部 総合医療学 2017年度
2. 岡田唯男. 客員教授 聖マリアンナ医科大学 地域医療学 2017年度
3. 岡田唯男. 非常勤講師 千葉大学医学部 医療経済情報学 2017年度
4. 岡田唯男. 非常勤講師 秋田大学医学部 臨床検査と診断学 2017年度
5. 岡田唯男. 吉澤瑛子. 岩間秀幸. 上松東宏. 田島明野. 玉野井徹彦. 氏川智皓. 山下洋充.
非常勤講師 安房医療福祉専門学校 病態学Ⅷ(小児) 2017年度
6. 永久保珠絵(R). 荒牧奈緒美(R). 特別非常勤講師 安房特別支援学校 2017年度
7. 岡田唯男. 学校医 館山市立北条小学校 2017年度
8. 岡田唯男. 学校医 千葉県立館山総合高等学校 2017年度
9. 年森慎一. 学校医 館山市立館山小学校 2017年度
10. 岡田悠. 学校医 館山市立房南中学校 2017年度
11. 岡田唯男. 見学実習担当指導医 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定薬剤師制度 2017年9月～2022年8月

*座長, 大会長, 司会, パネリストなど

1. 岡田唯男. 座長「International Session」Poster 第8回日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会 高松 2017年5月13日
2. 岡田唯男. 座長「International Session」Oral 第8回日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会 高松 2017年5月13日

*面接官, 試験官など(依頼)

1. 吉澤瑛子. 田島明野. 2017年度家庭医療専門医試験 ポートフォリオ審査会. 東京. 2017年
8月20日

*取材・メディアなど

1. 菅長麗依. ホームページ「総合診療医という選択」女性総合診療医のワークスタイル
2017年4月19日
2. 岡田唯男. ゲスト「人間ってなんだ?超AI入門 第8回「診断する」」NHK 2017年11月
24日
3. 年森慎一. ゲスト「櫃本真幸の～care of life～」FM愛媛 2017年12月9日, 16日

*一般向け講演、指導、健康教室 (Nは看護師、Rはりハビリ、その他は医師)

1. 千葉県安房特別支援学校 永久保珠絵(R)、荒牧奈緒美(R)…自立活動の指導助言 各、年5回
2. 千葉県安房特別支援学校 指導医 医療的ケアの指導 年6回

3. 館山市簡易マザーズホーム 永久保珠絵(R) 年4回、小池沙織(R) 年6回…療育相談
4. 山下洋充、久保田希、大田貴弘、森本美登里、健康教室「性感染症予防について」南房総市立千倉中学校 3年生生徒 2017年6月29日
5. 岡田悠、加藤礼乃、健康教室「禁煙について」海上技術学校 2017年7月19日
6. 玉野井徹彦、講師「体位ドレナージ(排痰・喉に物が詰まったとき)について」千葉県立安房特別支援学校 職員 2017年7月31日
7. 氏川智皓、潮雄介、原田真梨子、健康教室「糖尿病とは」糖尿病勉強会 館山コミュニティーセンター 2017年8月29日
8. 宮本侑達 健康教室 「感染症およびストレスについて」渋谷教育学園幕張高等学校 1年生生徒 2017年10月5日・6日
9. 玉野井徹彦、久保田希、坂井雄貴、健康教室「喫煙予防教室」館山市立那古小学校 5年生・6年生生徒 2017年12月11日
10. 鵜飼万実子、岡田悠、鈴木崇浩、小澤里恵、健康教室「知っておきたい性知識、性感染症の予防について」千葉県立館山総合高等学校 全校生徒 2017年12月19日
11. 岩間秀幸、上松東宏、久保田希、健康教室「思春期の心と体」館山市立北条小学校 家庭教育学級 2018年1月26日
12. 吉澤瑛子、山下洋充、鵜飼万実子、年森慎一、健康教室「性教育」房南中学校 1年生生徒 2018年1月31日
13. 氏川智皓、宮本侑達、王謙之、坂倉早紀、健康教室「喫煙予防」第一中学校 2年生生徒 2018年2月19日
14. 年森慎一、宮本侑達、羽田野貴裕、健康教室「薬物乱用防止」第二中学校 1年生・2年生生徒 2018年3月19日

*スポーツイベント帯同 大会ドクター及びマッチドクター

1. 2017年6月25日 第8回館山わかしおトライアスロン大会 (濱井彩乃、氏川智皓、玉野井徹彦、鵜飼万実子、年森慎一、坂井雄貴、金久保祐介、鈴木早苗(N)、小藤田史絵(N)、吉田憂子(N)、加藤早里佳(N))
2. 2017年7月24日・25日 和光中学校 臨海学校 沖の島遠泳 (玉野井徹彦、氏川智皓)
3. 2017年12月17日 南房総ジュニア体幹アカデミー 野球肘健診 (年森慎一)
4. 2018年1月29日 第38回館山若潮マラソン 館山市営市民運動場 (岡田悠、宮本侑達、常石大輝)

*地域イベントへの参加 (地域連携)

1. 岩間秀幸、平成29年度館山市要保護児童対策地域協議会代表者会議 2017年6月29日
2. 岡田唯男、平成29年度安房郡市教育委員会結核対策委員会 2017年7月13日
3. 年森慎一、第12回職員有志自主勉強会 2017年3月19日

以上